

令和4年度 地域包括支援センター事業運営評価シート

(センターの名称: 地域包括支援センター ゆず)

国指標評価		茅ヶ崎市指標評価	
○	×	○	×
54個	2個	10個	0個

地域包括 支援センター 自己評価	<p>市と協働し適正な包括支援センター運営に努めた。4年度も新型コロナウイルス感染症対策に留意しながら、包括支援センターゆずの独自事業を事業計画通りに実施し、利用者からも高評価であった。茅ヶ崎地区まちぢから協議会の委員として定例会や茅ヶ崎地区ボラセン・地区社協開催の会議へも出席することができ、一定の協力体制を推進することができた。また、地域ケア会議はコロナ禍の中、対面方式にて、個別ケース・地域課題の検討とケア会議の5つの機能を含んだ会議を2回開催できた。地域活動充実事業の一環としてセンター独自のA4版のチラシを作成して、まちぢから協議会の協力を得て茅ヶ崎地区内へ全戸配布を実施し、包括支援センターの紹介と相談窓口として周知や、民児協の勉強会では、包括支援センターについての勉強会の開催、企業からの認知症サポーター養成講座開催の依頼等、地域住民や近隣の商店会とのネットワーク構築を推進することができた。</p>
---------------------------------	---



基幹型包括 ヒアリングの ポイント及び 結果	<p>【ヒアリング実施日】令和5年5月25日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業計画作成にあたり、重点項目の検討も含め、ヒアリングの場で協議を行っていたが、指標となるメモ等の記録が確認できなかった。 ・まちぢから協議会の協力により、パンフレットを全戸配布するとともに、地区内の薬局等に配架するなど、センターの周知に向けた取組を実施していた。 ・ケアマネサロンでアンケートを実施し、ニーズに基づいて訪問看護や薬局などとの意見交換の場を設定し、連携強化のための取組を実施していた。 ・地域課題解決のために、地域ケア会議で認知症の方についての検討を行い、チームオレンジの立ち上げに向けた取組を実施していた。
---	---



地域包括支援センターの自己評価及び基幹型包括によるヒアリングの結果について、運営協議会に報告を行う。



茅ヶ崎市 総合評価	<p>【共通】 令和4年度はコロナ禍で地域での活動が自粛している中ではあったが、各センターが計画していたものについては、実施方法の工夫や規模の縮小を行って実施していた。特に地域ケア会議についてはセンター全体で「○」が10個増え、各センターが4つの機能を意識して積極的に取り組んでいたことを評価している。</p> <p>【個別項目】 事業計画の重点的な取組で示されている通り、特に認知症ケアに関する地域での普及啓発や地域ケア会議を通して資源開発を行っていた。また、地域活動充実事業費で作成したチラシを活用して、センターの役割の周知に努めていた。Q11-1、Q15は、記録を残すことによって達成できるため、改善を期待している。</p>
----------------------	---

* 市としての総合評価は、運営協議会の意見等を踏まえ、決定する。

令和4年度 地域包括支援センター事業運営評価シート

(センターの名称: 茅ヶ崎南地区地域包括支援センターつむぎ)

国指標評価		茅ヶ崎市指標評価	
○	×	○	×
55個	1個	10個	0個

地域包括支援センター自己評価	<p>前年度地域ケア会議のテーマであった若松町幸地区に集いの場において、「夢ある街のたい焼き屋さん」の店舗を一部借り、えみまるサロンを初めて企画・開催。地域住民や店舗の実施主体であるNPO団体とも連携を図る事ができた。今年度の地域ケア会議は中海岸地区の買物事情についてアンケートを700枚配布し地域の実態把握に努め、その調査結果を基に分析・報告を行い住民や行政、商店や企業と情報の共有を図った。また、まちぢから協議会が中心となり休憩場所の設置など地域づくりにも繋がった。地域の居宅介護支援事業所とは介護支援専門員のニーズに基づき、医療ソーシャルワーカーとコロナ禍における病院との連携方法や本人、家族支援について積極的な意見交換を行った。認知症サロンの立ち上げに向け、潜在している認知症サポーター養成講座受講済みの方をリストアップし、個別にステップアップ講座受講への案内を行い2名の受講に繋がった。</p>
-----------------------	--



基幹型包括ヒアリングのポイント及び結果	<p>【ヒアリング実施日】令和5年5月23日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機能強化分の職員が欠員となる期間があったが、他職員が業務の引継ぎを行うことで切れ目なく業務を行なえるよう体制を整えていた。 ・パンフレットやチラシをいつ、どこで、何部配布したか分かるよう一覧表を作成し、センター内の共通ツールとして活用していた。 ・病院、他センター、居宅介護支援事業所と意見交換の場を設けることで、地域の介護支援専門員との連携を強化していた。 ・アンケート結果をもとに、地域の実態に沿った地域ケア会議を開催し、商店や企業も含めた関係機関と意見交換することで、社会資源についての共有を図っていた。また、住まいに関する事など地域で共通する課題を意識したうえで、個別事例に関する会議を開催していた。
----------------------------	---



地域包括支援センターの自己評価及び基幹型包括によるヒアリングの結果について、運営協議会に報告を行う。



茅ヶ崎市総合評価	<p>【共通】</p> <p>令和4年度はコロナ禍で地域での活動が自粛している中ではあったが、各センターが計画していたものについては、実施方法の工夫や規模の縮小を行って実施していた。特に地域ケア会議についてはセンター全体で「○」が10個増え、各センターが4つの機能を意識して積極的に取り組んでいたことを評価している。</p> <p>【個別項目】</p> <p>3年度から引き続き、国指標55点(56満点)でほぼ全ての指標を満たしていた。地域ケア会議については、地域と連携して実態を把握する準備を行い、地域の関係者の役割を活かして必要な社会資源の開発に繋がった点を評価している。認知症施策に関しては、個別にステップアップ座受講へ案内を行うなど、今後の活動を見据えて取り組んでいた。引き続き地区の実情を踏まえて検討を進めていただきたい。</p>
-----------------	--

* 市としての総合評価は、運営協議会の意見等を踏まえ、決定する。

令和4年度 地域包括支援センター事業運営評価シート

(センターの名称:南湖地区地域包括支援センターれんげ)

国指標評価		茅ヶ崎市指標評価	
○	×	○	×
56個	0個	10個	0個

地域包括支援センター自己評価	<p>令和4年度は職員交代があり地域の関係機関や住民との関係構築を丁寧に行っている。高齢分野以外の相談については人材育成研修に積極的に参加し、分野問わず相談対応し関係者や総合相談担当と連携することができた。「介護支援専門員のニーズに基づく意見交換」は地区社協より活動紹介をしてもらい、デイサービスやヘルパー支援の他にサロンやポラセンが選択肢にある等情報交換、意見交換の場を持つことができた。認知症関連事業では認サポを3回実施。そのうち西浜中学1年生対象に開催したことがきっかけで、学校主催の「職業人に聞く」の講師で保健師が包括の福祉、医療、高齢者、認知症支援の取り組みについて話すことができた。若い世代に情報発信できたことは大きな成果である。「防災・減災」をテーマとする地域ケア会議では大学の講師より災害時の対応講義や「避難所運営ゲーム」を通して参加者が互いの考えを交換する事ができ、今後の課題を共有する場となった。</p>
-----------------------	--



基幹型包括ヒアリングのポイント及び結果	<p>【ヒアリング実施日】令和5年5月25日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護支援専門員にアンケート調査を行い、ニーズに基づいて地区社協より活動を紹介してもらった場を提供し、他機関とのネットワーク構築に取り組んでいた。 ・認知症関連事業では、認知症サポーター養成講座を3回実施。また、学校主催の講座に保健師が出向き、包括や認知症等の取り組みについて繋げていた。 ・事業間連携については、在宅ケア相談窓口相談を行ったことにより改善されていた。 ・気軽に相談できる場所である「れんげひろば」について、のぼり旗を購入し、地域の高齢者だけでなく、誰でも相談できることがわかるように活用していた。また、コロナの感染状況が大きく変化する中、介護予防体操等を行う「れんげクラブ」を神社広場で行っていた。
----------------------------	--



地域包括支援センターの自己評価及び基幹型包括によるヒアリングの結果について、運営協議会に報告を行う。



茅ヶ崎市総合評価	<p>【共通】 令和4年度はコロナ禍で地域での活動が自粛している中ではあったが、各センターが計画していたものについては、実施方法の工夫や規模の縮小を行って実施していた。特に地域ケア会議についてはセンター全体で「○」が10個増え、各センターが4つの機能を意識して積極的に取り組んでいたことを評価している。</p> <p>【個別項目】 3年度「×」であった2項目について改善され、全ての指標を満たしていた。新体制において円滑な引継ぎを行うとともに、分野を問わない相談に柔軟に対応し、各関係機関等と連携協力して関係構築に努めていたと評価している。また、認知症に関する取組から得た成果については、今後の活動に活かすことを期待している。</p>
-----------------	---

* 市としての総合評価は、運営協議会の意見等を踏まえ、決定する。

令和4年度 地域包括支援センター事業運営評価シート

(センターの名称: 地域包括支援センター さくら)

国指標評価		茅ヶ崎市指標評価	
○	×	○	×
55個	1個	10個	0個

地域包括支援センター自己評価	<p>令和4年度コロナ禍は、感染予防対策を講じて事業計画を進めた。人材育成について、職員が研修会等に満遍なく参加し伝達講習を行い対人援助者としての技術の向上に務めた。地域共生社会の促進の充実に務め、地域の関係団体や地域へ出向き広報活動を実施した。</p> <p>また地域の団体の会議に定期的に職員が参加し、情報共有やネットワークの構築に努めた。地域支援事業として、地域サロン活動の再開が徐々にされ、地域包括支援センター職員の講師依頼があり広報活動と消費者被害対策に関する啓発活動を行った。認知症地域推進事業は、認知症サポーター養成講座を鶴嶺中学の例年開催と地域の関係団体の開催(8回)ができ、鶴嶺東地区オレンジカフェを考える会を開催した。</p>
-----------------------	---



基幹型包括ヒアリングのポイント及び結果	<p>【ヒアリング実施日】令和5年5月17日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材育成については、重層的支援体制整備事業の開始を意識し、法人のPDCシートを活用して個々の目標に応じた研修等に出席するとともに、定期的に評価を実施していた。 ・地域団体の会議に積極的に参加し、地域でのネットワークの強化を図り、事業展開の基盤を作るとともに、介護支援専門員の円滑な業務を支援していた。 ・地域ケア会議において、地域で孤立している方について課題を整理し、地域の関係者と連携協力して急変時等に備えた対応策を講じていた。 ・認知症サポーター養成講座の開催に加え、地域ケア会議において「認知症オレンジカフェを考える会」を開催し、認知症に関する事業展開に積極的に取り組んでいた。
----------------------------	--



地域包括支援センターの自己評価及び基幹型包括によるヒアリングの結果について、運営協議会に報告を行う。



茅ヶ崎市総合評価	<p>【共通】 令和4年度はコロナ禍で地域での活動が自粛している中ではあったが、各センターが計画していたものについては、実施方法の工夫や規模の縮小を行って実施していた。特に地域ケア会議についてはセンター全体で「○」が10個増え、各センターが4つの機能を意識して積極的に取り組んでいたことを評価している。</p> <p>【個別項目】 3年度から1項目改善され、国指標55点(56満点)でほぼ全ての指標を満たしていた。重点的取組方針で掲げている中でも特に、地域共生社会の促進の充実及び認知症施策の推進を意識して、地域の関係団体や地域活動に対して能動的に連携を図っていた。引き続き地域の実情を踏まえて、取組を継続していただきたい。</p>
-----------------	--

* 市としての総合評価は、運営協議会の意見等を踏まえ、決定する。

令和4年度 地域包括支援センター事業運営評価シート

(センターの名称: 鶴嶺西地区地域包括支援センターみどり)

国指標評価		茅ヶ崎市指標評価	
○	×	○	×
52個	4個	10個	0個

地域包括支援センター自己評価	<p>新型コロナウイルスに対するワクチン普及と感染予防対策により、環境や意識の変化等から令和3年度に予定した事業はほぼ開催できた。民児協議会や地区社協との連携は様々な面で継続できている。まちぢから協議会主催のアンケート集計に参加できた事は今後の地区診断にも活かすことができる。地域行事は未開催行事が多く、参加機会が無かったが、独自事業としてみどりカフェやフレイル防止のためのポールウォーキング・脳活クラブを行うことができた。認知症サポーター養成講座については地区内の薬局やサロン等も対象に開催できた。事業等の開催に際し、包括の紹介を含めた「みどり通信」の定期的な発行と配布により包括や独自事業・家族介護者教室の周知と案内に活用できた。センターの運営に関しては、若干の欠員期間も出てしまったが滞りなく事業を実施した。今後欠員の無いよう改善していく。</p>
-----------------------	---



基幹型包括ヒアリングのポイント及び結果	<p>【ヒアリング実施日】令和5年5月23日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機能強化分の職員が欠員となる期間があったが、他職員が業務の引継ぎを行うことで切れ目なく業務を行なえるよう体制を整えていた。 ・3年度は個別事例に関する地域ケア会議を開催できていなかったが、4年度は個別事例について検討することで業務改善を図っていた。また、虐待ケースへの対応について地域ケア会議を開催し、関係機関で対応の流れを確認することで、虐待に関する問題意識の統一を図っていた。 ・介護支援専門員のニーズを把握したうえで、民生委員、居宅介護支援事業所、まちぢから協議会に対して虐待についての勉強会を開催し、地域の関係機関との連携を行っていた。
----------------------------	--



地域包括支援センターの自己評価及び基幹型包括によるヒアリングの結果について、運営協議会に報告を行う。



茅ヶ崎市総合評価	<p>【共通】 令和4年度はコロナ禍で地域での活動が自粛している中ではあったが、各センターが計画していたものについては、実施方法の工夫や規模の縮小を行って実施していた。特に地域ケア会議についてはセンター全体で「○」が10個増え、各センターが4つの機能を意識して積極的に取り組んでいたことを評価している。</p> <p>【個別項目】 コロナ禍ではあったが、みどりカフェなど独自事業の実施や「みどり通信」の活用により、地域の関係機関との連携を強化を図っていたと評価している。 指標に関しては、4年度改善された項目はあったものの、新たに3項目が「×」となった。3項目とも、記録を残すことによって達成できるため、改善を期待している。</p>
-----------------	--

* 市としての総合評価は、運営協議会の意見等を踏まえ、決定する。

令和4年度 地域包括支援センター事業運営評価シート

(センターの名称: 海岸地区地域包括支援センターあい)

国指標評価		茅ヶ崎市指標評価	
○	×	○	×
54個	2個	10個	0個

地域包括支援センター自己評価	<p>今年度は四季サロン4回(23名参加)、ちがさき体操・湘南くち体操・プチコグニサイズを11回(105名参加)、家族介護教室1回(7名参加)を感染状況を鑑み対策を講じた上で開催した。「あいだより」の発行、SNSによる発信も行い、自治会の協力を得て回覧板・掲示板による周知活動も行い、参加申し込みが増加している。地区の介護事業所や地区社協からの依頼を受けて認知症サポーター養成講座を開催したり、民児協より依頼を受けて、新任の民生委員へ向けて包括の紹介、介護保険の説明を行ったり、地域のサロンからも依頼を受けて介護保険の説明を行うなど地域の身近な相談窓口としての周知も定着してきている。高齢者の見守りネットワークについても検討を重ね、連携の取りやすい関係機関を広げる取り組みを続けており、今年度は薬局の方たちと意見交換を行い、来年度に繋げていきたいと考えている。</p>
-----------------------	--



基幹型包括ヒアリングのポイント及び結果	<p>【ヒアリング実施日】令和5年5月15日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業計画に基づき、着実に事業を実施し、全体として目標を達成できていた。 ・「あいだより」を活用し、四季サロンやちがさき体操等の情報の周知に努めていた。 ・避難行動支援に対する地域ケア会議を行い、災害時の支援について地域の関係機関や団体と連携し取り組んでいた。また、高齢者の見守りネットワークについて、薬局と意見交換を行っていた。 ・在宅ケア相談窓口への相談および消費者被害に関する事例については、包括内で解決できたため相談実績がなかった。 ・地区社協とネットワーク会議を実施し、地域における高齢者のニーズや社会資源について協議をした。
----------------------------	---



地域包括支援センターの自己評価及び基幹型包括によるヒアリングの結果について、運営協議会に報告を行う。



茅ヶ崎市総合評価	<p>【共通】 令和4年度はコロナ禍で地域での活動が自粛している中ではあったが、各センターが計画していたものについては、実施方法の工夫や規模の縮小を行って実施していた。特に地域ケア会議についてはセンター全体で「○」が10個増え、各センターが4つの機能を意識して積極的に取り組んでいたことを評価している。</p> <p>【個別項目】 全体として、指標で示されている内容を理解し、業務に取り組んでいた。4年度は国指標54点(3年度56満点)だが、「×」については相談する案件がなかったためと理解している。また、地域での活動に積極的に参加してセンターの役割を共有するなど、センターが地域の身近な相談窓口として定着するよう取り組んでいる点を評価している。</p>
-----------------	---

* 市としての総合評価は、運営協議会の意見等を踏まえ、決定する。

令和4年度 地域包括支援センター事業運営評価シート

(センターの名称: 湘南地区地域包括支援センターすみれ)

国指標評価		茅ヶ崎市指標評価	
○	×	○	×
55個	1個	10個	0個

地域包括支援センター自己評価	<p>令和4年度の事業計画に基づき事業運営を進めたが、コロナ第7波で活動は引き続き自粛となり、中島中学校での認知症サポーター養成講座は未実施。感染予防の観点から、最低開催人数を4人としてチラシを作成、周知活動を行い、地区社協の役員を対象に講座を開催。その講座をきっかけに包括れんげが西浜中学校で講座を開催するにあたり、すみれも参加協力。また、属性問わずの相談窓口となった事を周知するため、地域活動の紹介記事を地区社協の広報新聞に掲載。職員は障害や、ヤングケアラーなど新たな分野の研修に積極的に参加。URとも協働し、夏休みの子供のラジオ体操に参加し、若い世代の方にも周知活動を行った。介護保険等の出前講座も開催。地域ケア会議は5回開催し、個別課題は2回実施した。</p>
-----------------------	--



基幹型包括ヒアリングのポイント及び結果	<p>【ヒアリング実施日】令和5年5月23日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分野を問わない相談を意識し、団地内のテナントやURとも連携して周知活動を行うなどの取り組みをしていた。 ・包括的・継続的ケアマネジメント支援について、独自に介護支援専門員へのアンケートを実施し、ニーズに基づいて民生委員との意見交換の場を設けるなど、介護支援専門員が円滑に業務を行える体制づくりをしていた。 ・地域ケア会議について、認知症高齢者など個別事例に関する会議を2回、ネットワーク構築や資源開発に関する会議を3回、計5回開催し、地域の課題解決に積極的に取り組んでいた。 ・ネットワーク会議の場を活用して社会資源等に関する協議を行うよう、第2層の地域支え合い推進員との連携を意識した取り組みの改善がされていた。
----------------------------	---



地域包括支援センターの自己評価及び基幹型包括によるヒアリングの結果について、運営協議会に報告を行う。



茅ヶ崎市総合評価	<p>【共通】 令和4年度はコロナ禍で地域での活動が自粛している中ではあったが、各センターが計画していたものについては、実施方法の工夫や規模の縮小を行って実施していた。特に地域ケア会議についてはセンター全体で「○」が10個増え、各センターが4つの機能を意識して積極的に取り組んでいたことを評価している。</p> <p>【個別項目】 元年度以降「×」の項目についてひとつずつ改善されており、評価指標の内容を理解して業務に取り組んでると評価している。相談者の属性や世代に関わらず相談支援を行うことについては、地域の社会資源を有効的に活用し周知に努めていた。また、地域ケア会議だけでなく、関係機関の会議や活動にもネットワーク構築を意識し、意図的に取り組んでいたと理解している。</p>
-----------------	---

* 市としての総合評価は、運営協議会の意見等を踏まえ、決定する。

令和4年度 地域包括支援センター事業運営評価シート

(センターの名称: 地域包括支援センターくるみ)

国指標評価		茅ヶ崎市指標評価	
○	×	○	×
55個	1個	10個	0個

地域包括支援センター自己評価	R4年度は、地域ケア会議にて個別事例の検討から移動手段に関わる地域課題についての意見交換を行うことができた。実際に住まわれている自治会役員や民生委員の方の意見、H28年に実施された赤羽根地区の住民に対するアンケートで、3割の方が移動手段に困っていると回答されていることから移動手段の不便さが、松林地区上赤羽根地区の地域課題の一つと明確化された。またそれは、管理責任者会での各包括の意見からも、松林地区のみの課題ではなく、市域全体の課題として共通認識を持つことができた。3職種の必要数の配置に関しては、職員の退職が続いたが、別途職員の入職、異動等により、切れ目なく業務を実施することができた。国24Q33項目について、重層的支援体制整備事業が開始されたことにより、より担当課との連携や相談支援を受けながら対応する場面が増加し、今後の課題共有もできた為、効果的な対応に繋がった。
-----------------------	---



基幹型包括ヒアリングのポイント及び結果	<p>【ヒアリング実施日】令和5年5月19日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年度実施できなかった個別事例に関する地域ケア会議を開催して、運転免許返納後の生活支援や移動手段について取り上げ、地域の社会資源に関して情報共有するとともに、移動手段の不便さという地域課題を明確化していた。 ・介護支援専門員のアンケートに基づき、成年後見制度に関する講座に介護支援専門員も参加できるよう、湘南ふくしネットワークオンブズマンと調整して、意見交換の場を設けることができていた。 ・職員間の連携体制として、ICTチャットを導入することにより、タイムリーに職員間で情報共有し、担当者不在時でも速やかに対応できる体制を整えていた。
----------------------------	--



地域包括支援センターの自己評価及び基幹型包括によるヒアリングの結果について、運営協議会に報告を行う。



茅ヶ崎市総合評価	<p>【共通】 令和4年度はコロナ禍で地域での活動が自粛している中ではあったが、各センターが計画していたものについては、実施方法の工夫や規模の縮小を行って実施していた。特に地域ケア会議についてはセンター全体で「○」が10個増え、各センターが4つの機能を意識して積極的に取り組んでいたことを評価している。</p> <p>【個別項目】 「×」から「○」に改善された項目が5項目あり、うち4項目は地域ケア会議に関する事で、センターが意欲的に地域の関係者と連携協力して取り組んできた結果と理解している。また、予定外の職員の療養や退職で十分な引継期間がない中、組織として切れ目なく業務を実施するための仕組みが構築されていると評価している。</p>
-----------------	--

* 市としての総合評価は、運営協議会の意見等を踏まえ、決定する。

令和4年度 地域包括支援センター事業運営評価シート

(センターの名称: 地域包括支援センター あかね)

国指標評価		茅ヶ崎市指標評価	
○	×	○	×
54個	2個	10個	0個

地域包括 支援センター 自己評価	<p>令和4年度より、重層的支援体制整備事業となり世代に問わない相談を受けた。高齢者以外の相談がを大きく増えてはいないが、障がいを持つ相談者が定期的に来所するなど少しずつ相談傾向に変化が見られた。引き続き、高齢者以外の相談内容に対応できるよう、他機関との連携や制度について研鑽を続けていく必要性を感じた。介護支援専門員への個別の相談対応はできているが、介護支援専門員間の意見交換の場を設定することはできなかった。地域ケア会議で検討した具体案(湘北ボランティアセンターの周知活動)を実施した。参加者はボランティアセンターのサポーターや民生委員等関係者が多かったが、内容は好評だった。今後はボランティアの担い手候補が参加できるよう長い期間をかけ活動を継続していく必要性を感じている。鶴が台地区での相談会について、相談件数が減少しているため、周知や開催方法について検討する必要性がある。</p>
---------------------------------	--



基幹型包括 ヒアリングの ポイント及び 結果	<p>【ヒアリング実施日】令和5年5月17日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・包括的・継続的ケアマネジメント支援については、評価の指標となる意見交換の場は確保できていなかったが、自治会や老人会等に出向いて、介護予防や介護保険制度に関する共有を積極的に行い、介護支援専門員の業務の円滑化を図っていた。 ・地域ケア会議について、個別ケースの課題分析を行い、ひきこもりや消費者被害といった地域課題に関して検討し、改善が図られていた。また、地域課題に対して、ボランティアセンターを活用した防災に関するイベントを開催するなど、関係機関と連携して取り組んでいた。 ・鶴が台地区での相談会については、のぼりを作成するなど周知活動に努めるとともに、コロナ禍で相談を予約制とするなど継続してできるように工夫をしていた。
---	--



地域包括支援センターの自己評価及び基幹型包括によるヒアリングの結果について、運営協議会に報告を行う。



茅ヶ崎市 総合評価	<p>【共通】 令和4年度はコロナ禍で地域での活動が自粛している中ではあったが、各センターが計画していたものについては、実施方法の工夫や規模の縮小を行って実施していた。特に地域ケア会議についてはセンター全体で「○」が10個増え、各センターが4つの機能を意識して積極的に取り組んでいたことを評価している。</p> <p>【個別項目】 元年度以降「×」の項目について着実に改善されており、評価指標の内容を理解して業務に取り組んでいた。また、重点的な取組方針に掲げていた、総合相談支援業務における他機関との連携や、地域課題である担い手養成について継続的な視点で取り組んでいたと評価している。引き続き地区の実情を踏まえて検討を進めていきたい。</p>
----------------------	---

* 市としての総合評価は、運営協議会の意見等を踏まえ、決定する。

令和4年度 地域包括支援センター事業運営評価シート

(センターの名称: 小和田地区地域包括支援センター 青空)

国指標評価		茅ヶ崎市指標評価	
○	×	○	×
54個	2個	9個	1個

地域包括支援センター自己評価	<p>今年度は、認知症地域支援推進員と地域の認知症サポーターが協力してチームオレンジの活動に取り組んだ。毎月定例会でチームオレンジの活動について検討し、令和5年4月より認知症カフェを開催することも決まった。社会福祉士の職員異動に伴う業務の引継ぎが円滑に行うことができた。新人職員の育成の為、包括職員のスキルアップを目的とした研修会への参加やセンター内の勉強会開催を積極的に行った。コロナウィルス感染予防対策を行い、昨年より多くの事業等に取り組むことができた。認知症サポーター養成講座を2回(民生委員・児童委員協議会と地域住民対象1回、赤羽根中学校1年生対象1回)、地域ケア会議を2回(防災について1回、認知症の社会参加について1回)、家族介護教室(テーマ: ケアマネジャーの仕事について)、作業療法士による地域住民向けの講座を1回(テーマ: 正しい姿勢について)。地域の関係機関との顔が見えるネットワーク作りも継続できている。</p>
-----------------------	---



基幹型包括ヒアリングのポイント及び結果	<p>【ヒアリング実施日】令和5年5月15日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パンフレットやチラシの作成に際し、幅広い世代の方に興味を持ってもらえるように、掲載内容の工夫を行っていた。 ・地域ケア会議について、地域課題の解決を目的として、チームオレンジとの連携をテーマとした会議が開催されていた。 ・地域包括支援センター内の人材育成について、研修受講の記録は確認できたが、個別計画書の作成が確認ができなかった。 ・担当圏域が市境にあることから、隣接する地区の介護支援専門員に対し、多様な関係機関等との意見交換を実施していたが、担当圏域内の介護支援専門員との意見交換会は実施できていなかった。
----------------------------	---



地域包括支援センターの自己評価及び基幹型包括によるヒアリングの結果について、運営協議会に報告を行う。



茅ヶ崎市総合評価	<p>【共通】 令和4年度はコロナ禍で地域での活動が自粛している中ではあったが、各センターが計画していたものについては、実施方法の工夫や規模の縮小を行って実施していた。特に地域ケア会議についてはセンター全体で「○」が10個増え、各センターが4つの機能を意識して積極的に取り組んでいたことを評価している。</p> <p>【個別項目】 新人職員の育成を目的とした勉強会の開催や研修会の参加を積極的に行った点は評価している。今後はセンター職員全員について、個別に計画を立てて人材育成に取り組んでいただきたい。また、在宅医療・介護連携推進事業における相談窓口の活用を検討いただきたい。</p>
-----------------	--

* 市としての総合評価は、運営協議会の意見等を踏まえ、決定する。

令和4年度 地域包括支援センター事業運営評価シート

(センターの名称:松浪地区地域包括支援センターさざなみ)

国業務評価 (3/31時点)		市運営状況評価	
○	×	○	×
55個	1個	10個	0個

地域包括 支援センター 自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の高齢者等の参加の場として、朝のラジオ体操を開催した。地域をつなぐ「趣味の冊子」のデジタル版と保存版を作製した。また、「趣味の冊子」に掲載されている方を対象にした地域ケア会議を年度当初に開催した。 ・属性を問わない相談対応を目指し、職員が人材育成研修に取り組んだ。オンラインで研修ができるよう整備し、不具合なく研修に参加することができた。 ・新型コロナ感染のため職員の休みがあったが、日々の記録を活用することで、相談を中断することなく行えた。
---------------------------------	--



基幹型包括 ヒアリングの ポイント及び 結果	<p>【ヒアリング実施日】令和5年5月15日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機能強化分の職員が欠員となる期間があったが、他職員が業務の引継ぎを行うことで切れ目なく業務を行えるよう体制を整えていた。 ・社会資源の情報をまとめた「趣味の冊子」について、デジタル版を発行するとともに、掲載団体等のネットワーク構築にも地域ケア会議を活用して取り組んでいた。 ・包括的・継続的ケアマネジメント支援について、近隣病院と介護支援専門員の意見交換の場を設けたり、介護保険制度や介護予防等に関する出前講座を実施するなどしていた。 ・介護予防ケアマネジメントについて、自立支援・重度化防止等に資するケアマネジメントに関する基本方針を委託先の居宅介護支援事業所に示すよう、業務改善が図られていた。
---	--



茅ヶ崎市 総合評価	<p>【共通】</p> <p>令和4年度はコロナ禍で地域での活動が自粛している中ではあったが、各センターが計画していたものについては、実施方法の工夫や規模の縮小を行って実施していた。特に地域ケア会議についてはセンター全体で「○」が10個増え、各センターが4つの機能を意識して積極的に取り組んでいたことを評価している。</p> <p>【個別項目】</p> <p>国指標55点(56満点)でほぼ全ての指標を満たしていた。</p> <p>地域の関係機関等とのつながりを大切にし、朝のラジオ体操や「趣味の冊子」の活動を継続していたことを評価している。属性を問わない相談対応を行うにあたり、人材育成研修に計画的に取り組むとともに、身近な相談窓口としての周知にも力を入れていたと認識している。</p>
----------------------	--

* 市としての総合評価は、運営協議会の意見等を踏まえ、決定する。

令和4年度 地域包括支援センター事業運営評価シート

(センターの名称: 地域包括支援センターあさひ)

国指標評価		茅ヶ崎市指標評価	
○	×	○	×
55個	1個	10個	0個

地域包括 支援センター 自己評価	<p>国指標(Q31)について、消費者被害の情報提供が昨年度未実施であったが、広報誌「あさひ通信」に掲載して民生委員児童委員等へ周知した。</p> <p>地域ケア会議について、令和4年度は計2回、市の包括的支援事業の実施方針に従い4つの機能を踏まえ検討した。具体的には個別課題解決機能、地域づくり・資源開発機能として個別事例(利用者の家族によるカスタマーハラスメントのケース)をもとにした会議と、地域課題発見機能、地域包括支援ネットワーク構築機能として防災をテーマに地域住民と介護事業所の顔の見える関係づくり、避難行動要支援者支援制度の理解を目的とした会議を行った。</p>
---------------------------------	---



基幹型包括 ヒアリングの ポイント及び 結果	<p>【ヒアリング実施日】令和5年5月19日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護支援専門員の座談会でのアンケート結果を踏まえ、地域の病院や補聴器の事業者を招いて勉強会を開催し、地域における社会資源などを共有して連携を強化していた。 ・地域ケア会議について、個別事例の検討を行い、課題を明確化するとともに、3年度は実施できていなかったモニタリングを実施し、改善が図られていた。 ・地域の介護サービス事業者や医療機関等の情報について、分野別にファイリングし、相談時に適切な情報提供を行えるよう、定期的に更新がされていた。 ・職員間の連携体制として、ICTチャットを導入することにより、タイムリーに職員間で情報共有し、担当者不在時でも速やかに対応できる体制を整えていた。
---	---



地域包括支援センターの自己評価及び基幹型包括によるヒアリングの結果について、運営協議会に報告を行う。



茅ヶ崎市 総合評価	<p>【共通】</p> <p>令和4年度はコロナ禍で地域での活動が自粛している中ではあったが、各センターが計画していたものについては、実施方法の工夫や規模の縮小を行って実施していた。特に地域ケア会議についてはセンター全体で「○」が10個増え、各センターが4つの機能を意識して積極的に取り組んでいたことを評価している。</p> <p>【個別項目】</p> <p>3年度「×」の4項目については全て改善され、国指標55点(56満点)でほぼ全ての指標を満たしていた。事業計画書の重点な取組方針で示されている通り、防災への取組について地域住民と介護事業所で共有し、検討する機会を設けていたことを評価している。また、地区の福祉事業所と連携協力して、計画的に認知症カフェの開催につなげていたと認識している。</p>
----------------------	---

* 市としての総合評価は、運営協議会の意見等を踏まえ、決定する。

令和4年度 地域包括支援センター事業運営評価シート

(センターの名称: 地域包括支援センター わかば)

国指標評価		茅ヶ崎市指標評価	
○	×	○	×
55個	1個	10個	0個

地域包括支援センター自己評価	<p>地域ケア会議は専門職派遣事業を活用し、避難行動要支援者名簿を活用した地域連携をテーマに開催した。今後民生委員と名簿を通しての情報共有作業に反映していく方向。又、個別課題では、地域からの声でタイムリーに開催し、具体的な課題解決に至り、更に地域と居宅介護支援専門員との連携が構築できた。権利擁護では、関係者の情報共有の機会を早期に設けた事で、被害拡大を予防できた。認知症初期集中チーム員会議に介護支援専門員と共に参加し、虐待への対応と、ケアマネジャーへの支援ができた。茅ヶ崎北陵高校での認知症サポーター養成講座を、10年連続で開催した。地域のサロンや教室の住民への周知、独自事業の行谷シニア体操教室の再開、予防事業への職員参加など重度化防止に取り組み、関係団体からの講座依頼に積極的に協力した。重層的支援体制においても、高齢者支援を通して、生きにくさを抱えた家族への支援など、福祉政策課と連携して支援を継続した。</p>
-----------------------	---



基幹型包括ヒアリングのポイント及び結果	<p>【ヒアリング実施日】令和5年5月17日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機能強化分の職員が欠員となる期間があったが、他職員が業務の引継ぎを行うことで切れ目なく業務を行なえるよう体制を整えていた。 ・地域ケア会議について口頭での報告は実施していたが、データや紙媒体による共有は確認できなかった。 ・地域ケア会議の開催にあたり、避難行動要支援者名簿について専門職等派遣事業を活用して、住民への情報共有と意見交換を行っていた。また、地域におけるごみ出し問題について、関係機関や地域住民との連携強化を図っていた。 ・虐待予防も含めた虐待ケースへの対応が複数あったが、市ケースワーカーと連携を図り、早期対応を行っていた。
----------------------------	--



地域包括支援センターの自己評価及び基幹型包括によるヒアリングの結果について、運営協議会に報告を行う。



茅ヶ崎市総合評価	<p>【共通】 令和4年度はコロナ禍で地域での活動が自粛している中ではあったが、各センターが計画していたものについては、実施方法の工夫や規模の縮小を行って実施していた。特に地域ケア会議についてはセンター全体で「○」が10個増え、各センターが4つの機能を意識して積極的に取り組んでいたことを評価している。</p> <p>【個別項目】 改善を指摘していた3項目について、全て改善が図られていた。事業計画書の重点的な取組方針で取り上げている内容に対して、積極的に取り組んでいたと評価している。Q55については地域ケア会議開催後に参加者間での共有を徹底するよう、改善をお願いしたい。</p>
-----------------	---

* 市としての総合評価は、運営協議会の意見等を踏まえ、決定する。